

令和3年度(2021年度)役員体制(専門部体制)

役 職	氏 名	企業・事業所名	役 職	氏 名	企業・事業所名
会 長 (雇用部長)	江 籠 達	㈱アーグレイファクトリー	理 事 (啓発・広報部)	東 川 弘 美	㈱ジーテクト
副 会 長 (雇用部)	松 山 元 彦	㈱コーガイソート	理 事 (啓発・広報部)	畑 山 博 行	㈱滋賀松風
副 会 長 (雇用部)	中 嶋 大 展	甲賀バス(株)	理 事 (研修部長)	奥 嶋 たみ子	(社福)信楽福祉会 信楽荘
副 会 長 (雇用部)	佐々木 明	ショット日本(株)	理 事 (研修部)	飯 田 利 樹	甲賀農業協同組合信楽支所
副 会 長 (雇用部)	岸 野 幸 廣	住友電工ウインテック(株)	理 事 (研修部)	小 林 保	甲賀協同ガス(株)
事務局長 (雇用部)	北 川 勝 之	甲賀農業協同組合	理 事 (研修部)	田井中 洋	滋賀交通(株)水口営業所
理 事 (啓発・広報部長)	田 中 健 二	近江鉄道(株)土山サービスエリア	理 事 (研修部)	森 口 彰	西川ローズ(株)甲賀事業所
理 事 (啓発・広報部)	内 田 宏 文	ニッポンロジパック(株)	理 事 (研修部)	瀬 古 良 夫	大原薬品工業(株)
理 事 (啓発・広報部)	石 田 一 樹	(社福)甲賀学園	理 事 (研修部)	高 阪 裕 貴	医療法人社団仁生会甲南病院
理 事 (啓発・広報部)	山 田 裕 子	(社福)あいの土山福祉会	理 事 (研修部)	寺 元 国 久	㈱滋賀銀行水口支店
理 事 (啓発・広報部)	木 田 一 志	山一化工(株)滋賀工場	監 事	曾 我 三四次	㈱水口テクノス
理 事 (啓発・広報部)	山 本 英 樹	セキスイボード(株)	監 事	岡 根 芳 正	㈱滋賀銀行大原支店

甲賀市企業人権啓発窓口担当者第2回ステップアップ連続講座

企人協会員従業員対象人権研修会開催

2020年12月14日(月)

令和2年度 甲賀市企業人権啓発窓口担当者第2回ステップアップ連続講座・企人協会員従業員対象研修会が、甲賀市まちづくり活動センター「まる一む」にて開催されました。

コロナ禍での開催であったため、会場(42社)とZoom(77社)とのハイブリッド研修となりました。

「障がい者と人権について」というタイトルで桂福点さんにご講和いただきました。

福点さんは、生後すぐに緑内障だったため、右目を失明し、中学校二年生の時に両目ともに視力を失います。元々、引っ込み思案の性格もあり、幼い時はいじめられっ子でしたが、絵を描くことが好きで、それをきっかけに、大阪芸大で音楽療法を専攻されました。音楽は、人を変えていく。笑うという共通点で落語に傾倒されます。

福点さんの話を聞いていると、面白おかしく



熱演の桂 福点さん

話していらっしゃいましたが、子どもの頃は、いじめられたり、不便なことも多かったと想像します。大変な苦労されていると感じさせない軽妙な話ぶりは、とても聞きやすく、福点さんが障がい者であることを感じませんでした。「人を育てるのは、学校や施設だけではない。それは、企業にとっても同じで、健常者、障がい者問わず人をつくる場所だと思う。」という言葉がとても印象的でした。

今回の講和をお聞きし、職場での障がい者への関わり方を考える良いきっかけをいただき、ありがとうございました。

(株)ジーテクト 東川 弘美・記)



ハイブリッド研修の光景



桂福点さん 片岡法子さん

甲賀市企人協特別研修会

「ハンセン病と人権」

講師：黄檗宗菩提禅寺 住職 安部 正毅さん



熱弁の安部住職

令和3年(2021年)4月27日まる一むにおいて企人協特別研修が行われました。

「ハンセン病と人権」という題で、黄檗宗菩提禅寺・住職・安部正毅さんより、お話を伺いました。

ハンセン病について、安部さんは大学時代の同学年の学生さんが急にいなくなったことが知る事の発端だったそうです。当時、家族がハンセン病を発症すると療養所と言う名の隔離施設へ行かされ、また、遺伝性の病気だと言うことでその家族も一緒に隔離されたそうです。後にいなくなった同級生が隔離されたことを知り、ハンセン病について論文にまとめようとしたことが始まりだったとのことです。

ハンセン病は、「らい菌」によって引き起こされる慢性の細菌感染症で、主に末梢神経がマヒしたり、皮膚がひきつれたり等の症状が現れる病気で、現在では薬で治療することが出来、また、発症者は国内では数人程度と言われる病気です。有効な薬が出来るまで、発症者の症状がとても痛ましいものであり、古くは奈良時代から差別が繰り返されてきたと伺いました。全国各地に療養施設(隔離施設)があり、安部さんは岡山にある療養施設に何度か足を運んでおられ、当時の療養施設の様子など生の声を聞いてこられています。差別により隔離された人たちは、戸籍は抹消され、隔離施設にて別の名前を登録されたそうです。また、その施設内では使えない通貨が発行されており、施設外ではお金が使えず、逃走した際に困るような仕組みになっていたようです。また、逃走し、戻って

きた際にはきつい監禁室までもあったとのことでした。戸籍を抹消された人々は故郷に帰ることが出来ず、いまだに療養施設内の納骨堂にて遺骨が納められているとのことでした。ハンセン病への理解が進むにつれ、隔離施設に入所していた人たちは自由に外出や通勤が出来るようになりました。しかし、病気によって侵された変形が一見してわかる顔面や手足などに現れ、極度の変形と機能障害が共同浴場に行った際に他人に見られることが怖かったり、理解されないのではないかという思いがあり、療養施設に戻って来られる方も多かったようです。

ハンセン病差別と、現在世界中で猛威を振るっているコロナウイルスの感染による差別について同じような事が起きていると安部さんはおっしゃっておられました。病気のことを正しく知ったり、理解したりすることにより、病気への怖さが減り、差別も無くなっていくと言われておられました。ハンセン病の事はニュースでしか知らなかった私にとっては、安部さんのお話は具体的な内容であり、病気を理解することで差別意識がなくなるという意味がとても分かりました。

最後に、安部さんは自分の経験をもとに差別について語っていききたい、それが「自分を生かし」、自分だけではなく「他人を生かし」、そのことによって世の中「すべてを生かす」とおっしゃられており、私自身、コロナ禍における差別についても考えていきたいと改めて思わせてもらった研修でした。ありがとうございました。

(社会福祉法人 甲賀学園 神能由佳(記))



Zoomで聴講の参加者